

# RSウイルス感染症とは

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。

RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化やすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。

生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。

潜伏期は2～8日と100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。

潜伏期は2～8日と100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。気管支炎や肺炎などの下気道症状が出始めます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日うちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸にくくなること）や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。

主な症状



発熱

せき

鼻水

呼吸困難

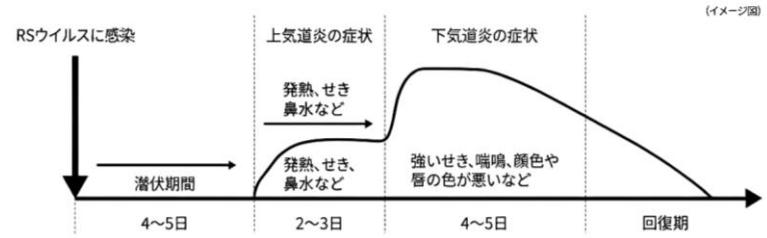
注意するべきものには、1歳以下では中耳炎の合併症がよく見られる症等があります。

受診の目安として、機嫌がよく、辛そうでなければ、慌てずに様子を見たり、かかりつけ医にご相談下さい。

ただし呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関へお問い合わせください。

一般的には、風邪の様な症状のみで重症となることは少ないとされていますが、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患のある高齢者や免疫不全者

図1.RSウイルス感染症の主な症状<sup>2)</sup>



謹賀新年

謹んで新年の  
お慶び申し上げます  
本年もよろしく  
お願いします  
令和8年 元旦

曾山 医院



**感染経路**  
RSウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手

指や物などを介した接觸感染といわれています。

RSウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手

指や物などを介した接觸感染といわれています。

RSウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手

指や物などを介した接觸感染といわれています。

**予防と対策**  
RSウイルスに感染があることが知らされており、注意が必要です。

基本的な感染対策を

生活習慣にしましよう。

日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、流水・石鹼による手洗い、またはアルコール製剤による手指衛生を行なうことが重要です。

また、60歳以上を対象としたワクチンと、生まれてくる子どもの予防を目的とした妊婦さんを対象としたワクチ

はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用すること

や、手洗いや手指衛生といつた基本的な対策の徹底を行うことが大切です。

また、60歳以上を対象としたワクチンと、生まれてくる子どもの予防を目的とした妊婦さんを対象としたワクチ



はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用すること

や、手洗いや手指衛生といつた基本的な対策の徹底を行うことが大切です。

電話予約 : 0799-62-5566 (診療時間内)

ネット予約 : <https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/> (24時間対応)

\*携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます\*

